

2017（平成29）年度

N I E 実 践 報 告 書



Newspaper in Education

群馬県N I E推進協議会

2017（平成29）年度

N I E 実 践 報 告 書



Newspaper in Education

群馬県N I E推進協議会

Contents

ごあいさつ …………… 群馬県 NIE 推進協議会会長 中 尾 敏 朗

『新聞を読む』

NIE 活動を通じて、身近に新聞のある生活から
自分の視野を広げ、語彙力を高めよう。

昭和村立東小学校 …………… 6

自分の考えを分かりやすく表現できる児童の育成
～情報を的確に読み取る指導の工夫を通して～

高崎市立新高尾小学校 …………… 10

「言語活動に親しみ、自分の考えを表現できる児童の育成」

－国語科で新聞を読み、意見文を書く活動を通して－

沼田市立利南東小学校 …………… 14

NIE 実践報告書

前橋市立富士見中学校 …………… 18

NIE 平成29年度の取り組み

高崎市立第一中学校 …………… 22

世の中の動きに目をむけ、思考力を育て、表現力を高めよう

沼田市立沼田南中学校 …………… 26

言語能力と実社会への関心を高める NIE

太田市立東中学校 …………… 30

国語科・総合的な学習の時間の実践

桐生市立相生中学校 …………… 34

NIE 平成29年度の取り組み

群馬県立尾瀬高等学校 …………… 38



ごあいさつ

群馬県NIE推進協議会会長 **中尾 敏朗**
(群馬大学教育学部准教授)

群馬県NIE推進協議会では、県内各地の小・中・高等学校等におけるNIEに関する研究の推進・発展を目的に、毎年さかんな活動を続けています。

2017年度には、あわせて9社の新聞社・通信社の皆様の力強いご支援の下、次の9校の実践指定校を中心にして、活発な事業が展開されました。関係各位のご理解とお力添えに、心より感謝を申し上げます。

高崎市立新高尾小学校、昭和村立東小学校、沼田市立利南東小学校、
桐生市立相生中学校、太田市立東中学校、前橋市立富士見中学校、
高崎市立第一中学校、沼田市立沼田南中学校、群馬県立尾瀬高等学校

2017年6月9日の県協議会総会では、かねて実践指定校から要望のあった子ども新聞等の購読について審議し、「(新聞)本紙に代えて加盟各社が発行する子ども新聞、英字新聞、専門紙を購読することができる」旨を合意して、県内各校に通知しました。小中学校という年齢段階や高校ごとの特質にふさわしい多様な新聞が活用され、一層高い学習効果を生むことが期待されます。

8月3日と4日に名古屋市で開催された第22回NIE全国大会には、本県実践指定校から小中2名の方が参加されました。その成果は8月10日の県協議会情報交換会で詳細に報告され、全国的なNIE研究の動勢を踏まえた一層前向きな活動の推進について、熱心な意見交換が行われました。

いかに情報通信の高速化・利便化が進んだとはいえ、新聞ほど長く豊かに、国民全体の社会意識や言語文化を支え育ててくれたメディアはありません。日々の暮らしの中で新聞に親しんでこれを自在に読みこなし、新聞を基地にして明日の社会を考えるなどの力は、これからの時代にあってもきわめて大切なものです。今後とも、本協議会や県内各校で進められるNIE活動が、子どもたちにこうした資質・能力を育む上で大いに役立ってくれることを願ってやみません。

『新聞を読む』NIE活動を通じて、身近に新聞のある生活から自分の視野を広げ、語彙力を高めよう。

昭和村立東小学校 教諭 加藤 大禪

1 実践の概要

本校は、平成28年度からNIE実践校の指定を受け、今年度は2年目の取り組みとなり、5年生18人のクラスで実践を行った。送られてきた新聞は、教室に新聞の置き場所を設け、児童が自由に閲覧できるようにした。

NIEの活動を行うにあたり、児童の新聞に対する興味・関心についての簡単なアンケートを実施した。その結果、日頃から興味・関心をもって新聞に触れたり、気になる記事があるからと新聞を読んだりする児童は少なかった。その理由としては、家で新聞を取っていない、ゆっくり読む時間がないなどが挙げられた。また、どんな所を読むかについては、天気予報や番組表、野球などのスポーツ面が挙げられた。情報は、テレビニュースやインターネットニュースなどから得る児童が多いという結果となり、新聞に興味・関心をもつ児童が非常に少ないことが分かった。また、普段の授業や会話の中で、教師が発した言葉の意味が分からないことが多く、語彙力が低いことも分かった。

そのため、昨年度に引き続き『新聞を読む』というテーマを設定し、児童自ら新聞を手にして、新聞を読むことから始めようと提案し、意図的・継続的に新聞に触れられる環境を設定した。

本校の児童は、普段の授業や全国学力学習状況調査の結果などから、自分の考えたことを表現する力や日常生活を自分達の学習に結びつける力、目的に応じて文章中から必要な情報を読み取る力が低いという課題が挙がっており、本実践を通じてそれらの課題の改善・学力の向上を目的として活動に取り組んだ。

実践の中心としては、国語・社会の授業の中で新聞を活用するようにしたが、なるべく多くの児童が新聞の存在を気にするように様々な場面で新聞を扱うようにした。

第1段階は、授業の導入部でその日の1面や話題になっている出来事についての新聞記事を紹介したり、帰りの会で日直が発表したりするようにした。

第2段階は、国語や社会を中心に授業で学習している内容の記事や関連する記事を取り上げて、新聞をより身近に感じられるようにした。

第3段階は、自分の気になる記事を切り抜き、その記事について調べ、自分なりに簡単な見解をもったり、二紙を比べて読んだりという活動を行った。

今回の実践では、新聞を身近に感じ、読むことを通して、文章を読むこと・書くことの向上、語彙力のアップを目指すこと、日常生活の中で世界や日本の情勢にも興味・関心をもってほしいという考えからこの実践を進めていった。

2 新聞の置き場と整理の方法

置き場：毎朝、日直が職員室に新聞を取りに行き、教室の指定場所に掛けておき、児童が自由に新聞を手にして読めるように掲示しておいた。

整理の方法：その日の新聞をラックに移し、繰り返し読めるようにしておいた。5年生単独での実践であったため、気になる記事は切り抜き、スクラップブックにすることにした。



【教室の新聞管理】



3 実践の内容

第1段階は、授業の導入部で扱う記事として、社会性を考えさせるもの・スポーツ・芸能・地域のニュースなど多様な内容を紹介するように心掛けた。また、帰りの会で日直が気になるニュースを発表することによって、朝読書の時間や業間休みなどちょっとした時間に新聞に目を通すことが多く見られるようになった。

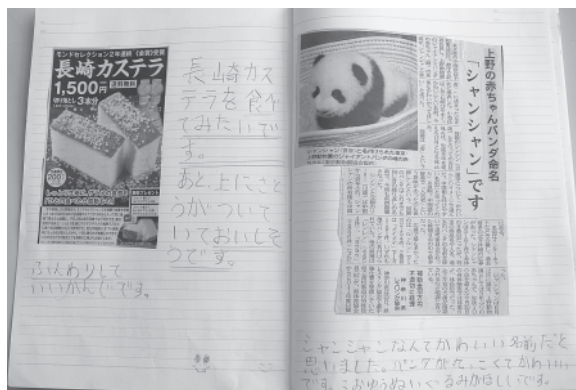
第2段階は、国語や社会などの授業で学習している内容の記事や類似する記事を取り上げて、新聞をより身近に感じられるようにした。授業が終わると新聞を確認しにいたり、気になる記事が掲載してある紙面を切り抜き、スクラップブックに貼って感想を書いたりする児童が多くなった。また、何度も読み返す児童も現れるようになった。

第3段階は、自分の気になる記事を新聞から切り抜き、その記事について調べ、自分なりの見解をもったり、二紙を比べて読んだりする活動を行った。

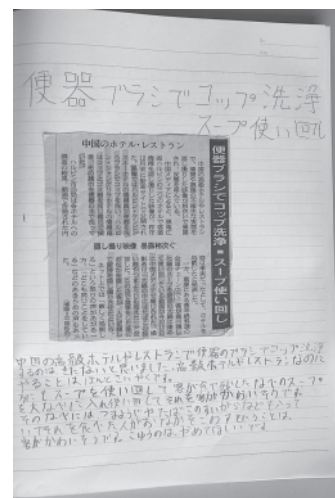
国語の「メディア・リテラシー入門」、社会の「情報化した社会とわたしたちの生活」に関連させて行った。「メディア・リテラシー入門」については、二紙の同じ記事の部分を読み比べ、どのように違うのかを調べさせた。その中から、他のメディアでは「どう言っているのだろう」と疑問をもち、調べる児童もいた。「情報化した社会とわたしたちの生活」においては、社会の学習の中で、情報産業である新聞社の役割について、各新聞社の特徴などを調べさせ、簡単にまとめていく活動を行った。

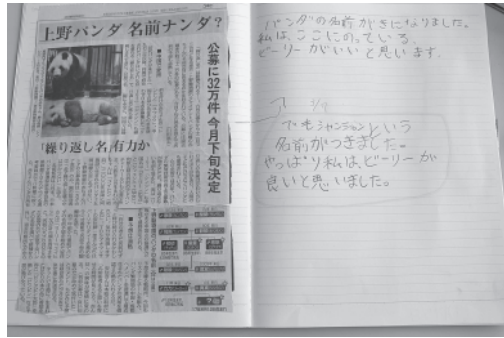
また、「気になる記事」というテーマでスクラップブックの作成にも取り組んだ。

【スクラップブック作成の一例】

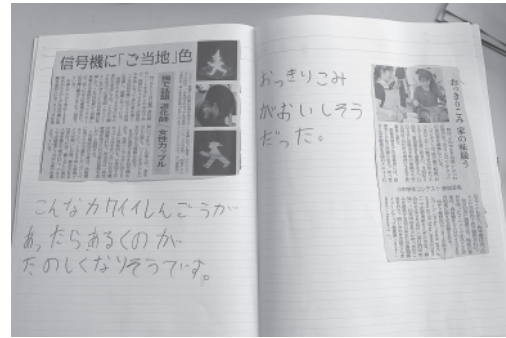


中国ではすごいことが起きているんだなあ





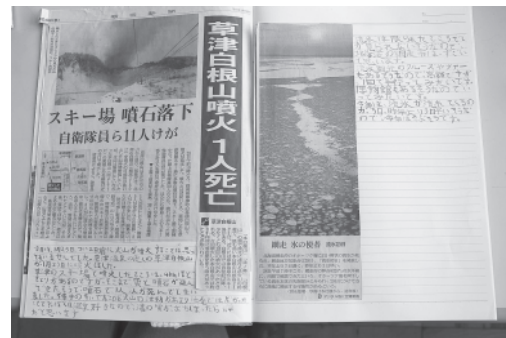
たくさんの中から選ばれたなんてすてきです。



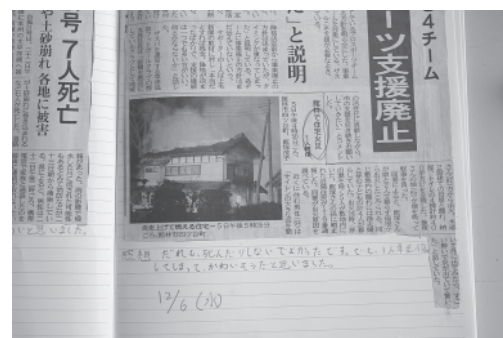
かわいい信号なら事故も減らせるね。



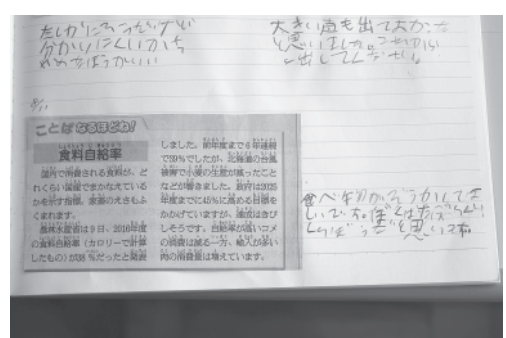
地元の高校生の活躍が載っていました。自分でも何か人の役に立つことができたら良いと思います。



日本は火山がたくさんある国なので、自然災害は大変だけど、予知とか早くできると良いと思います。



火事は一瞬で大切な物を灰にしてしまう恐さがあるので、火の取り扱いには気を付けようと思います。



言葉がたくさん紹介されているので、知らない言葉を多く知ることができました。

4 実践の感想・成果と今後の課題

【児童の感想】

- ・テレビでは扱わないニュースなどが載っていて良かった。
- ・分からない言葉や漢字、知らない言葉が分かるようになった。
- ・繰り返し読めるので、テレビを見るより楽しかった。
- ・新聞社によって、同じ記事でも内容が違うことが分かった。
- ・自分のペースでゆっくりと読むことができた。また、記事を切り抜くことでいつでも読み返せるので新聞の良いところが分かった。
- ・新聞を読んだことによって、本などの文章がすらすら読めるようになった。
- ・記事の取り扱いは、新聞社によって違いがあることが分かった。

【担任の感想】

N I Eの活動を始める前に行ったアンケートの結果を見ると児童達は、今、日本や世界で起きていることをどのように情報収集しているのかという驚きと、簡単な言葉でも意味を理解していないことが多いということが分かり、不安を抱いたところからのスタートであった。昨年度と同じ『新聞を読む』というシンプルなテーマの設定で1年間取り組んでいけるのかという不安もあった。

しかし、教室に新聞があるという景色は、「読んだことが気になるから自分で調べてみる。」「新聞によって同じ記事でも違うことが書いてある。」「新聞にこんなことが書いてあった。ああそうなんだ。自分は〇〇だと思う。」「この言葉は、どういう意味だろう。」などのような児童の反応が次第に見慣れ、変わっていくのを感じた。担任として、N I Eの活動を通して、学習の中で新聞を取り扱うことは、記事について細かく説明や解説をしなければいけないとか、新聞の存在を強く意識付けていかなければいけないなど、難しく考えていたことにも気付かされた。

また、気になるニュースを個人やグループで調べたり、調べたことをクラス全体で交流したりするなど、N I Eの活動は、高学年だけでなく、各学年の様々な学習の中で取り組むことのできる活動であると感じた。

【成果○と今後の課題●】

- 児童が意図的・継続的に新聞に触れられる環境を設定することで、新聞への興味・関心を高めることができた。
- 新聞を読むことから読書をすること、文章をじっくり読むこと、文章の書き方など、様々な力が付いた。
- 読めない漢字や意味の分からない言葉など、進んで漢字辞典や国語辞典を使い、調べることで語彙力が付いてきた。
- 2年目であったが、昨年度と同様の活動であったため、読むことが中心になり、考えたことを表現する力や順序立てて文章を書く力の向上まで結びつけられなかった。また、単学年での実施であったので、学校全体で取り組める工夫をしていく必要がある。
- 教室掲示した新聞は、段ボールに入れまとめたが、その後の効果的な活用方法を考える必要がある。

自分の考えを分かりやすく表現できる児童の育成

～情報を的確に読み取る指導の工夫を通して～

高崎市立新高尾小学校 教諭 黒澤 郁恵 平石 参大

1 実践の概要

本校では、今年度の校内研修の副主題を「情報を的確に読み取る指導の工夫を通して」とし、ブロックごとにめざす児童像を設定し、国語科の説明的な文章を中心に研修を進めてきた。各ブロックでめざす児童像は次のとおりである。

低学年：自分の考えや気づきを言葉や絵などで伝えることができる子

中学年：自分の考えを整理して、伝え合うことができる子

高学年：自分の考えの根拠を明確にして、伝え合うことができる子

NIE実践校として1年目の今年度は、情報を的確に読み取る指導の工夫の一環として、新聞に親しみ、新聞を活用して言語能力と論理的思考を育てていくことをねらいとして、第2・5学年を中心に、授業実践を行った。また、図書室に新聞コーナーを設け、児童が自由に新聞に触れ、親しむことができるようにし、廊下の掲示板には、授業で学んだことが深まることをねらいとして、教科書の内容に関係のある新聞記事の切り抜きを掲示している。

2 新聞の掲示と整理

5学年の廊下に、NIEコーナーを設けて小学生新聞も含めて7紙を自由に閲覧できるようにしている。また、廊下の掲示板に、授業に関わりのある記事や、タイムリーな記事の切り抜きを掲示して、新しい情報に触れさせるとともに、授業で学んだ内容を深める一助としている。

また、図書室の新聞コーナーのラックには、週代わりで小学生向けの新聞と雑誌「月刊Newsがわかる」を掲示している。図書室を訪れた児童が、読みたい本を探す間に新聞コーナーの新聞や雑誌のページをめくることがよくあり、新聞が身近なものになるきっかけとなっている。



NIEコーナー



図書室新聞コーナー

3 実践の内容

① 5学年の実践

(1) 2学期の学校公開日に新聞を利用した道徳の授業を行った。1組では「働くこと」の意義についての新聞記事を拡大して掲示し、話し合いを通して考えを深めることができた。

2組では「希望と勇気、強い意志」をテーマに、リオデジャネイロパラリンピックの際の水泳選手の姿をビデオと新聞記事で紹介して、弱さを克服し、目標に向かって努力する事

について学んだ。

3学期には社会科「情報化した社会とわたしたちの生活」の単元で、新聞のテレビ欄を調べ、番組編成の工夫について学習した。



社会科の授業



道徳の授業

(2) 学習指導案

社会科学学習指導案

平成30年1月22日(月) 第1校時
5年1組

I 単元名 情報化した社会とわたしたちの生活

II 本時の学習 (本時は4/6)

1. ねらい

テレビ番組はどのような種類があるかを新聞のテレビ欄で調べて、番組編成のくふうをまとめることができる。

2. 準備・資料

教師・・・教科書・拡大新聞

児童・・・教科書・新聞(1日分)・色鉛筆・ノート

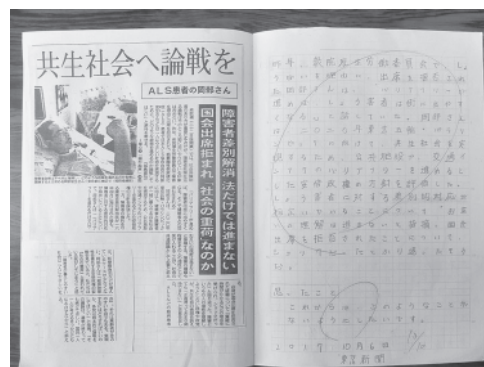
3. 展開

学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点 ・ 支 援
①テレビ番組にはどのようなものがあるかを発表し合い本時のめあてをもつ。 めあて テレビの番組は、どのようにして決められているのでしょうか。	5分	・ニュース番組・天気予報・ドラマ・スポーツ・CMなど自由に発言させ、たくさんの種類の番組があることに気づかせる。

②新聞のテレビ欄を見て、番組編成の工夫を調べる。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビの番組編成は、視聴者の時間帯に合わせて行われていることに気づかせる。 ・「知る番組」と「楽しむ番組」に分類させて、放送時間帯を調べさせる。
③テレビの番組編成の工夫をノートにまとめて発表する。	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・気づいたこと、見つけたことをメモして、根拠を明確にしながら、ノートにまとめる。 ・番組がどのような考えで編成されているか、自分の意見を発表させる。
放送局では、テレビの番組を視聴者が見る時間帯に合わせて編集している。		
④本時のまとめをする。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞のテレビ欄から、番組編成の工夫を振り返りながら、時期や曜日によってもその傾向が異なることを確認する。

(3)ノート指導

本校では、研修主題である、自分の考えを分かりやすく表現できる児童の育成に向けて、かく活動を中心として、自分の考えを整理して分かりやすく相手に伝えることを目指し、ノート指導の工夫を図ってきた。具体的には、「ノート指導のさしすせそ」の共通理解を図り、どの学年においてもノートのとり方のスタンダードとしている。



5年生の家庭学習ノート

《ノートのとり方さしすせそ》

高学年：「さいしょに日付」「したじきを使って」「すっきり見やすく」「せいかな文字で」「そうさく（創作）しよう」

低学年：「さいしょに日付」「したじきを使って」「すっきり見やすく」「せいかに」「そっくりまねよう」

新聞を活用した学習では、家庭学習として、関心のある新聞記事の切り抜きをノートの左ページに貼り付け、記事の内容についての感想や自分の意見を右ページに書かせてきた。かく力、表現する力を育てるとともに、様々な社会の動きを広い視野で見つめ、自分なりの意見を持つことに、大いに役立っていると考えている。

②2学年の実践

2年生にとって新聞は身近なものではなく、今まで新聞を手にとったことのない児童が多い。まして、記事に目を通したことのある児童はごく少数である。そのような児童に、新聞を身近なものとして利用し、言語能力を高めるために、国語（読書）の時間を使って図書室で学校図書館指導員と担任とのTTで、新聞記事の中から、ひらがな・カタカナ探

しの授業を行った。

はじめに、児童を3～4人のグループに分け、新聞を1部ずつ配付した。新聞を開いて待たせていると、写真を見て「何これ！」や「あっ、この人知ってる！」など、さっそく様々なつぶやきが聞こえてきた。

次に赤鉛筆を出させ、これから言うひらがなを新聞記事の中から探して印を付けるように指示をした。探すひらがなは、担任の名まえ9文字や外国人のカタカナの名まえなどとした。よーい、スタートで始めさせると、どの児童も夢中になって新聞とにらめっこし、要領の良いグループは探す範囲を分担しながら赤いしるしを付けていた。

授業後の感想では「担任の先生の名まえをさがすのが楽しかった。」「真剣に細かい字をさがした。」「全部さがせると、本を1冊多く借りられるのでうれしかった。」など、楽しく積極的に活動できたことが伝わってきた。



2年生文字さがしの授業

4 実践の感想と今後の課題

- 実際の新聞を用いることで、興味をもって活動に取り組めた。
- 新聞を読むことで、ニュースを身近に感じ話題が豊富になった。
- 新聞の長い文章を要約できる児童が増えてきた。
- 書くこと、読むことに対する抵抗感が減ってきている。
- 国語だけでなく、多くの教科に渡って新聞を活用することができた。
- 要約する力に個人差がある。国語科を中心として言語活動の充実に努めるとともに、多くの教科において、新聞を取り入れた授業を一層工夫していきたい。
- 今年度は5学年と2学年を中心に新聞を活用した実践を行ってきたが、2年目となる来年度は学年・教科の幅を広げ、情報を的確に読み取る指導の一環として、学校全体で取り組んでいきたい。

<1年間の感想>～子どものノートから～

- ・情報ノートは、新聞を読むきっかけになりました。要約することが苦手だったけど、情報ノートで少し自信をもてるようになりました。ニュースは聞くより読んだ方が頭に入りました。
- ・ぼくは、新聞を読むのが苦手だったけど、だんだん続けているうちに読めるようになりました。また、難しい言葉が出てきたときは調べるという習慣が身につきました。
- ・私は、聞き取りや読み取りが苦手でした。でも1年間情報ノートをやって、ニュースの重要な部分を聞き取ったり、読み取ったりすることが簡単にできるようになりました。
- ・私は、情報ノートをやって、書く力、読む力が身につきました。初めは難しい言葉がたくさんあって、意味がわからないこともありましたが、同じ内容の記事を子ども新聞で読むようになったら、とてもよくわかって、大事なことをまとめて書けるようになりました。

「言語活動に親しみ、自分の考えを表現できる児童の育成」

－国語科で新聞を読み、意見文を書く活動を通して－

沼田市立利南東小学校 林 めぐみ

1 実践の概要

本校は、今年度より NIE 実践校として指定を受け、国語科で新聞を活用して児童が自分の意見を持ち、表現する能力を身に付けられるよう指導を行ってきた。教科担当制に伴い第 5・6 学年 4 学級での国語科での取組と全校で俳句作りを行ってきた四つの活動を紹介する。

- (1) 国語科 単元「意見文を書いて、投稿しよう」(第 6 学年 6 月実施)
- (2) 学習プリント「新聞を読もう」(第 5・6 学年 通年実施)
- (3) 新聞の閲覧 (第 5・6 学年 通年実施)
- (4) 上毛俳壇への投句 (全校 通年実施)

2 新聞の置き場と整理の方法

毎日配達していただく新聞は、高学年の教室がある 3 階で管理を行ってきた。誰でもいつでも新聞の閲覧ができるように廊下の新聞ラックに置かれ、NIE 担当が定期的に新聞の入れ替えを行ってきた。1 週間を過ぎた新聞は別室で新聞社毎に保管してきた。



3 実践の内容

- (1) 国語科 単元「意見文を書いて、投稿しよう」(第 6 学年 6 月実施 全 5 時間)

本実践でのねらい

国語科の書く領域において、新聞記事や投稿欄を利用して意見文を作成する指導を行うことで、文章全体の構成の効果を考え、自分の考えを明確に表現できる児童を育成する。

実践前の児童の実態把握と教材準備

- ・既習事項の確認(文章構成の型とその構成要素、意見文作成の活動経験等)を行った。
- ・上毛新聞読者投稿欄「みんなのひろば」から、授業で扱う意見文の記事を選定した。
- ・上毛新聞読者投稿欄「みんなのひろば」への投稿方法を確認した(原稿は 500 字以内等)。

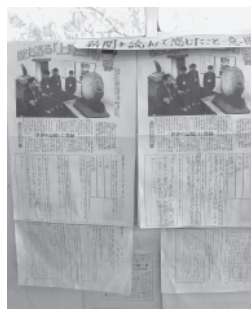
第 1 時

- ①ねらいー意見文には基本となる三つの文章構成の型があることを理解する。
- ②児童の様子
 - ・新聞の読者投稿欄について知り、意見文を書いて投稿する活動に関心を持つことができた。
 - ・投稿された意見文から筆者の主張を読み取ることで文章構成の型の理解ができた。

- ・新聞記事から児童が興味を持ちそうな記事を選び、記事の内容を読み取る設問を考え、学習プリント「新聞を読もう」を作成した。設問の最後には、児童が記事を読んでどのようなことに関心を持ち、どんな考えや意見を持ったか記述させる問いを設定した。

家庭学習として学習プリントの配布及び掲示・投稿活動

- ・年間で27回、週末に新聞記事を読ませて学習プリントに答えさせた。学習プリントは国語の時間に答え合わせをし、自分の考えや意見を発表させた。
- ・毎回、各学級数名の児童の学習プリントを廊下に掲示し、様々な考えや意見を紹介した。
- ・各学級で数名に声を掛け、学習プリントに記述したことをもとにして意見文を書かせた。上毛新聞読者投稿欄「みんなのひろば」に投稿し、多くの児童の作品を掲載していただいた。
- ・掲載された記事は校内3カ所に掲示し、全校に紹介した。作品が掲載されたことを友達と喜び合ったり、記事を読んで友達の考えを知ったりできた。家庭にも掲載されたことを知らせると大変喜んでくれた。



(3) 新聞の閲覧 (第5・6学年 通年実施)

本実践でのねらい

世の中の動向を知り情報を得ると共に、言語感覚を豊かにする。

新聞ラックからの閲覧

- ・新聞ラックは高学年の教室前廊下に設置し、その日の新聞は上段の棚に置き、前日までの新聞はクリップにはさんで下げた。
- ・児童は自由に閲覧しており、特に冬季オリンピック開催時のスポーツ関連の記事や子ども向け新聞に興味を持って新聞を読んでいた。



国語科での読む活動

- ・学期末の読書指導で長期保管しておいた上毛新聞の「風っ子新聞」、読売新聞「読売子ども新聞」を使って新聞を読む活動を行った。興味のある記事を夢中で読み、児童間で情報共有する様子が見られた。



(4) 上毛俳壇への投句 (全校 通年実施)

本実践でのねらい

学力向上の取組の一環として全校で俳句作りに取り組み、児童の豊かな言語感覚を育成する。

全校への周知

- ・職員会議でNIE担当から各学年へ投句活動を呼びかけ、投句方法を周知した。

投句用紙の作成・設置

- ・いつでも俳句作りや投句ができるよう学校統一の投句用紙を作成、設置した。投句用紙は、低学年用と高学年用を作成し、児童の実態に応じて書けるようにした。投句用紙の棚を用意し随時補充していった。

投句作業・掲載作品の掲示

- ・各学年で作った俳句はNIE担当がまとめて上毛新聞社へ送った。たびた



び入選作品として掲載していただいたことで、児童の俳句作りへの関心が高まった。「朝の一句」に選ばれると、児童も保護者も学校職員も喜ぶ様子が見られた。掲載された記事は校内3カ所に掲示し、全校に紹介した。

4 実践の感想と今後の課題

(1) 児童の変容

- ・「新聞を読もう」の学習活動を継続してきたことにより、新聞を読む習慣が身に付き、児童間で記事の内容を話題にして自分の考えを述べ合う様子が見られるようになった。
- ・国語科で、新聞記事の内容の読み取りとそれに対する自分の考えを持つ機会を与えたことにより、相手に主張をよりよく伝えるための意見文の構成や表現技法等を学び、自分の意見を明確に表現できるようになった。
- ・新聞を読んだり意見文を書いたりする活動を通して、語彙を増やして自分の表現に生かそうとする様子が見られた。記述量が増え、より具体的に書き表そうと努力する児童が多くなった。
- ・俳句作りでは、季語を意識して十七文字に情景や思いを込めようと言葉選びをしている様子が見られた。



(2) NIE 事業に取り組んで

- ・新聞を教育活動にどのように組み入れるか模索しながらの1年目の始まりだった。高学年国語科の目標に関わらせながら指導を行い、新聞記事を教材にしたり発展的な学習として新聞社に投稿できたりと学習の幅が広がり、生涯学習につながる指導ができた。
- ・児童に世の中の出来事を知らせ自分の考えを持たせるために行ってきた「新聞を読もう」は、設問の基本的な形式ができたことで、NIE 担当の負担が少なく週末の課題として継続できた。設問への記述内容を利用した意見文の作成の仕方を指導したことにより、投稿も数多くできた。

(3) 今後の課題

- ・今年度の NIE 事業への取組を職員に報告するとともに、来年度の計画を周知して全校で実践していけるようにする。
- ・「新聞を読もう」では、NIE 担当の選んだ記事を利用してきたが、来年度は児童が選んだ記事も利用して意見文を書く活動につなげていく。
- ・外部講師を招いた俳句作りの授業を計画し、豊かな言語感覚の育成を図るとともに投句活動を活発にする。

NIE 実践 報告書

前橋市立富士見中学校 教諭

松井 洋

序

新聞という情報媒体の活用をいかに図るかについては、これまでに様々な手段・方法が採用されてきたが、学校内の運用においては、基本的には「常時活用」を図ることが肝心であると考えられる。

授業での活用は行いつつ、学校生活の中で新聞が「生徒に寄り添う」ような状態が理想的であると言えよう。そうした常時活用を念頭に置いて本校では運用するよう心がけている。

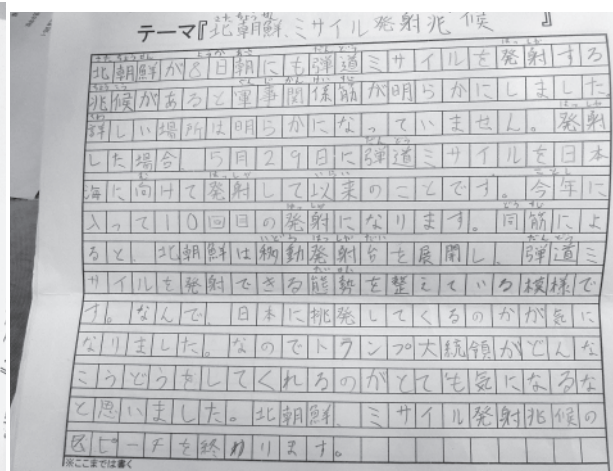
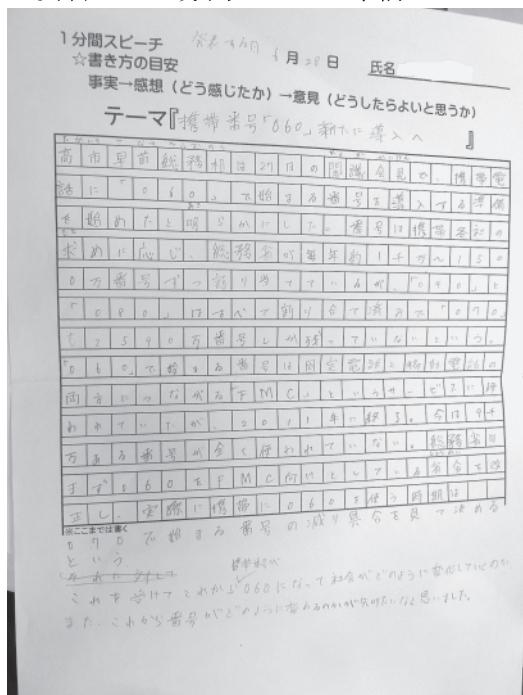
I 実践の概要

1, 「常時活用」を念頭に

(1)各学級への新聞配付(朝)

NIEの一環として学級数の新聞を頂いているが、これを広報委員の生徒が毎朝各学級に配付している。新聞への親近感の醸成と、日々の社会情勢の変化の把握を狙いとしつつ、「1分間スピーチ」の題材としての活用も行われている(資料1)。

資料1 1分間スピーチ原稿



(2)昼食時の放送

放送委員会担当の昼食時の放送において、「今日のニュース」を新聞記事から抽出し、全校に放送している。抽出の基準は当日担当の放送委員の生徒によるが、日々の紙面の内容に触れる機会となっている。時事のニュースに関心を持ち、社会情勢について考察する端緒となればと考えている。

(3)新聞の掲示場所の確保

本校北校舎と南校舎を接続する通路に新聞の掲示場所・保管場所としての棚があり、当日分も含め、過去数日間程度の新聞を掲示している（資料2・3）。この通路は主として1年生・3年生が利用し、新聞毎の記事の取り上げ方や論調等について比較する生徒もあり、また授業での調べ学習等にも活用されている。ある程度の日数を徒過した新聞は、最下段に収納しており、過去の記事の検索も可能である。

生徒が日常的に新聞に接し、情報収集などに当たれる場として貴重であると考えられ、当日の見出しなどの比較も行えることから、幅広くメディアリテラシーの醸成に寄与する物と考えられる。

資料2



資料3



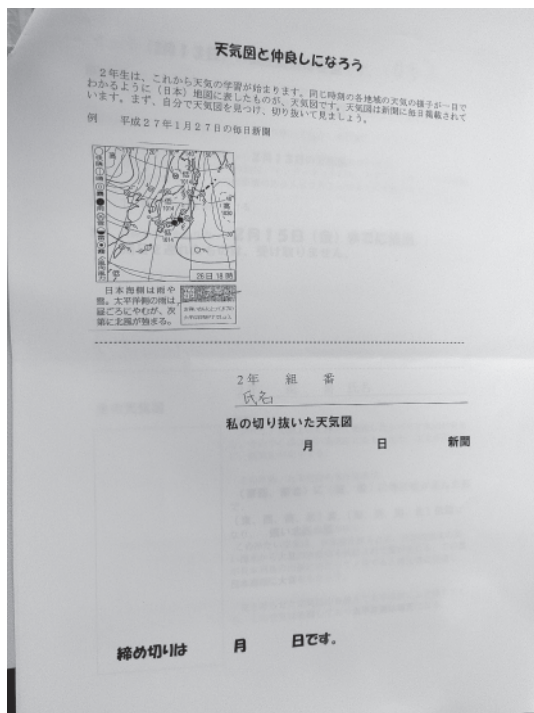
2. 授業実践

(1)理科 「天気図」

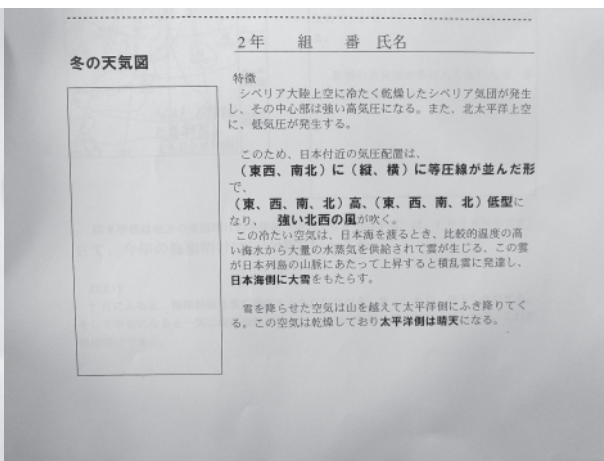
2年次に学習する「天気」に関して、新聞紙面の「天気図」の活用を図り、3年次まで継続して学習活動に利用している（資料4～6）。

学習時期	学習内容	備考
【2年次】	○新聞紙上の天気図の所在の確認	※ガイダンス
1月	○天気図の見方の概略	
1月～2月	○冬型の天気図の特徴	※冬型が発生した時
3月～4月	○移動性高気圧・低気圧について ○移動性高気圧の動きを知る	※一週間程度 継続した天気図を利用
【3年次】	○天気図から修学旅行の天気を予想	※修学旅行前
5月頃	○梅雨前線について	※梅雨入り
6月初旬	○梅雨入り直前と後の天気図を比較	
(7月中旬)	○梅雨明けの特徴について 梅雨明けが夏休みになる場合→課題	※梅雨明け
(9月頃)	○台風の特徴と動き (発生してから消滅まで)	

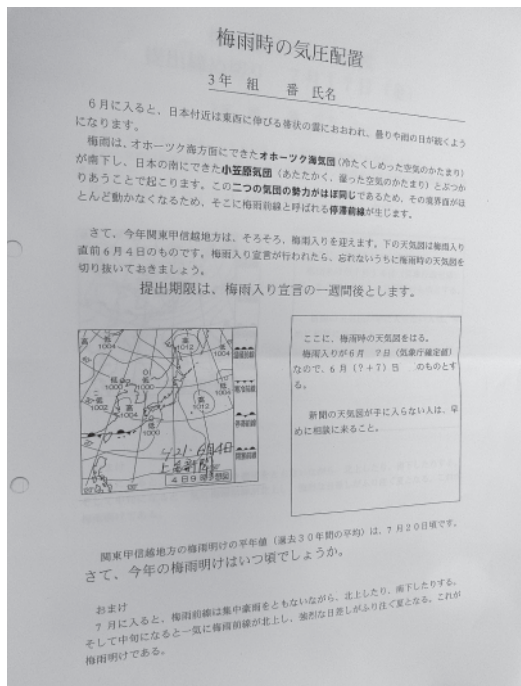
資料4 天気図と仲良しになろう



資料5 冬の天気図



資料6 梅雨時の気圧配置



とかく新聞紙面の利用は、国語科や社会科を中心に論説文や時事問題を活用することに偏りがちになることは否定できない。そうした点で、この実践は様々な活用方法を提案する試みであると考えられる。

また、新聞の活用について課題となる「購読していない家庭」についても、「新聞の天気図が手に入らない人は、早めに相談に来ること」とプリントに記入（資料6中央右）するなど、各家庭の実態に応じて配慮している。

(2) 社会 地理的分野

「世界のさまざまな地域の調査」

1年次に学習する「世界の地域調べ」について、新聞から当該国と日本とのつながりの深さを読み取らせた上で、当該国について

- (ア) テーマの決定
- (イ) 仮説と調査計画
- (ウ) 調査
- (エ) まとめ・発表

の手順で調べ学習を行った。なお、「(エ) まとめ・発表」については、春休み期間を活用し、とかく不足しがちな調査活動やまとめの時間確保を図ることとした。

「(ア) 調査しようとする地域・国・テーマを決定する」では、

新聞各紙を回覧し、

- ①調べようと思う国が記事として掲載されているか
- ②掲載されているのであれば、どのような内容なのか

③掲載されていない場合には、それはどうしてなのか
などについて考察しながら、調査する地域・国・テーマを決定していく（資料7）。

資料7 調べる国の決定とその国についての新聞記事の検索



なお、パソコン室で新聞の活用を行うことが多いが、これは新聞の網羅性・一覧性を活かしつつ、そこで生じた疑問等について即時性を持つインターネットを利用して調べることができるためである。

III 総括

本年度を振り返り、有益・有効であったとして挙げられるのは、以下のような点である。

①学校生活に新聞がある光景が根付いてきた

②程度の差はあるものの、新聞を活用した授業が見られるようになってきた

一方で、今後の課題として取り組む必要があると考えられるのは、

③より日常的に新聞を広げている姿が見られる学校

④安易にインターネットによる検索・調査に頼らず、一定の裏付け・信頼のあるメディア媒体としての新聞を更に利用すること

を挙げることができよう。

新聞の大きな長所は、情報取得が容易であり、視覚的に一括で関連した情報が得られることや、取材等による信頼性があることである。即時性を持つインターネットのメリットを活かしつつ、更に新聞の常時活用を図ることが肝要であると考えられる。

NIE 平成29年度の取り組み

高崎市立第一中学校

1 取り組みの概要

本校は、高崎市の中心部に位置し、各学年3学級、全校生徒282名の中規模校である。生徒の学習への意欲は高く、知的好奇心も高い。NIEは2年目となるが、本校では、将来社会の形成者となる中学生が、新聞を通して世の中の事象に興味を持ち、日々の学習に取り組むことは、大きな意義があると捉えている。本取り組みを通して、生徒が世の中の動向に関心をもったり、様々な文章表現や写真、グラフ、地図等の取り上げ方、またそれらと文章との関連などを学習したりすることで、総合的な学力の向上につながると考えている。また、昨年度までの取り組みをさらに効果的に行えるように、教員間での連携をより強化して活動に取り組んでいる。

具体的な取り組みとして、学校生活の中に新聞を取り入れていくことを重視している。授業での新聞の活用はもちろん、お昼の放送で担当が新聞の記事を発表したり、廊下等に新聞の記事を貼り出したりするなどして、生徒の新聞への関心を高めた。また、図書館と連携して生徒が手軽に新聞に向き合える環境の整備や、教員による新聞記事の読み取り方の支援も、生徒の新聞への関心を高めることにつながった。

2 新聞の置き場所について

本校は、以前から学校図書館に中高生新聞と一般新聞2社、計3社分が置かれ、全校生徒がいつでも新聞を読める環境にしてきた。NIEの取り組みで、さらに3社の新聞を追加し、新聞が身近な情報源であることを生徒に意識させ、情報をインプット・アウトプットできる図書館づくりをめざしている。

また、過去の新聞を読めるように、図書館では1ヶ月分、それ以前の新聞は特別教室に月ごとに保管している。

(1) 図書館での活用

新聞は、全校生徒が閲覧しやすいように図書室に置かれている。当日の分は手に取りやすいように新聞ラックに置かれ、1ヶ月分を新聞社ごとに図書室で保管している。



当日の新聞は、図書室の手に取りやすい場所に置いている。



過去の新聞を読めるように、新聞社ごとに1ヶ月間保管している。

(2) 特別教室での保管

1ヶ月過ぎた新聞は、特別教室の新聞閲覧コーナーに各社ごとに並べ、授業での取り組みがスムーズに展開できるように配慮したり、生徒が求めている情報を提供できるようにしたりしている。



1ヶ月を過ぎた新聞は、別室で新聞社ごと、月別に保管している。



過去の新聞を読み比べたり、自分の学習にあった記事を探したりできるように、新聞を広げられる机を整備している。

3 実践の内容

(1) 学校生活の中に新聞を取り入れた実践

①給食時の放送

本校では、給食の時間に放送委員が全校放送で新聞記事を紹介している。NIEの活動2年目の今年は、放送担当教諭を中心として複数の教員と放送委員が相談し、日本や世界で話題となっていること、授業に関連することを選んで放送している。



放送委員による給食時の放送



図書室で新聞記事を選んでいる様子



放送で紹介した記事の掲示

②各新聞社トップ記事の掲示

職員室前の廊下に、各新聞社トップ記事を掲示している。生徒は、その日各社が取り上げた記事が違うことを知ることができる。また、同じことを対象にした記事であっても、新聞社によって報道の仕方が異なることがわかるよう、できる限り対象となる記事の両論併記を心がけて掲示を行った。



③教科等に関連する新聞記事の掲示

理科室の入り口に、理科の学習内容に関連する記事を掲示している。学習したことが広がったり、理科への関心を高めたりしている。



(2) 図書館での活用

授業で新聞を活用できるように図書館指導員と教科担当が連携し、授業で必要な新聞を準備できるようにしている。

① 図書館前のトピックスコーナへの掲示

社説・コラム・ノーベル賞記事など、生徒に関心をもってもらいたい記事、教科の学習と関連のある記事を掲示している。

② 新聞記事と記事に関連した本の紹介

オリンピック関連の記事と関連した本、ノーベル賞の記事と関連した本など、新聞記事と関連した本を紹介することで、生徒の読書量が増えた。



(3) 教科での実践 (社会科)

公民の授業で、情報リテラシーを身につけるため、複数の新聞社の社説を読み比べる授業を行った。

まず、読売新聞と朝日新聞の社説を生徒に配布し読み取りを行わせた。安全保障に関する各社の考えの違いに気づかせるため、配布した記事をテレビに映し、関係する記述に下線を引かせた。特に新聞を読み慣れない生徒にとって、新聞社の社説は内容が難しく読み取りにくいものであるため、論点を絞って提示することを心がけた。両社の記事の主張の違いをワークシートに書かせ、新聞社によって様々な考え方があることに気づかせた。

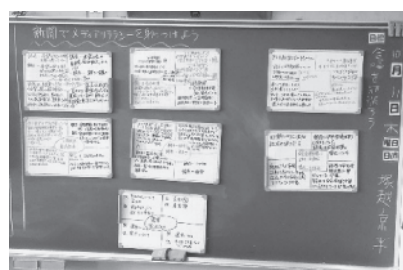


次に、個人の意見をホワイトボードに書かせ、意見交流を行った。記事の主張の違いに気づけない生徒は、グループ交流の中で気づくことができた。また、生徒たちが他の班のホワイトボードに書かれた意見を見る時間を設け、様々な人の意見と自分の考えを比較させた。



最後に全ての班のホワイトボードを黒板にはり、全体で交流を行った。普段から新聞を読んでいる生徒は、積極的に意見を発表したり、メモを取っている姿が見られた。

授業後、生徒に授業の感想を書かせた。「新聞社によって考え方がまるで違うことに驚いた。」や、「政治はよく話し合いを行い、違う意見も検討した上で行うべきだと思った。」などといった意見が見られた。



4 実践の感想と今後の課題

NIEに取り組んで2年目となり、新聞に興味を抱く生徒が増加した。昼休みになると図書室で複数の社説を読み比べ、多面的・多角的に新聞記事をとらえて話し合う3年生の姿が見られた。また、生徒から新聞記事に関する質問を受けたり、生徒との会話の中でも新聞の記事が話題となることが増えた。

昨年度は授業の導入として新聞記事を活用することが多かったが、今年度は授業の展開の中で活用する場面が多かった。ICT機器を用いて拡大した記事や新聞の写真を授業に活用したり、グループで社説を読み比べて、新聞社の主張の違いを読み取る授業も行った。

生徒の中には、新聞に書かれていることは、事実のみだという認識をもっている生徒もいて、「同じ出来事でも、新聞社によってまるで異なる主張をしていることに驚いた」という意見が多くあった。NIEの活動を通して、複数社の新聞を読み比べることができたことは、大きな意義があったと感じられる。情報にふりまわされたり、ひとつの情報だけを鵜呑みにしない基礎づくり、その情報の出所を確認したり比較したりするリテラシーを身につけることをサポートできたと考えている。

今後の課題としては、新聞の読み取りが難しい生徒、新聞を読む習慣の少ない生徒への対応があげられる。表現の分かりやすい中高生向けの新聞を選んで活用したり、目立つ場所に新聞記事を掲示したりして、生徒が新聞を身近に感じる環境作りを一層進めて行く必要がある。

世の中の動きに目をむけ、思考力を育て、 表現力を高めよう

沼田市立沼田南中学校 教諭 青木 理恵 崎谷 杏奈

I. 実践の概要

(1) テーマ設定の理由

本年度はNIE 実践指定校となり、4年目の取組となった。本校生徒の家庭でも新聞を購入している家庭は約半数で、普段新聞を読む生徒は減少傾向にある。また、ネットによるニュースの閲覧も増え、新聞を開く機会は少なくなっている。しかし、新聞の良さは、ぱらぱらとめくりながら世の中の動きに気付くことができる点、見出しを見ながら興味のある記事を選んで読むことができる点などにある。世の中の動きに関心を持つことは中学生にも必要な資質である。NIE実践校1年目は、まず、新聞に慣れ親しむことから始めた。2年目は、前年度のテーマに加えて、「世の中の動きに関心を持ち、社会の一員としての自覚を高め、多面的に物事を考えられる生徒の育成」を目指した。3年目からは、新聞から得た情報で物事を考えるだけでなく、考えたことを表現する力を高めることを目指して「世の中の動きに目をむけ、思考力を育て、表現力を高めよう」をテーマとして設定し、考えたことをまとめたり発信したりできるよう取り組んでいる。

(2) 実践の概要

【国語科：第3学年実践】

新聞を読んで気になる記事を見つけ、①キーワード②要旨③意見・感想をまとめた。新聞ノートとして通年を通して家庭学習として取り組み、国語が苦手な生徒も要旨に沿った自分の考えをまとめられるようになった。

【国語科：第2学年授業実践】12月 1月

日常生活の中から課題を見つけ、意見文を書き新聞社へ投稿した。多くの生徒が上毛新聞社の投稿欄に掲載された。新聞記事からの意見作文では、生徒は記事を正しく読み取ることに留意し、自分の主張が伝わるように、誤解がないようにと推敲を重ねた。新聞の投稿欄まで読むようになった生徒が増えた。

【国語科：第1学年授業実践】2月

「小学校6年生に南中を紹介しよう」というテーマで新聞作りに取り組んだ。その前段階として「新聞について学ぼう」という出前授業を実践した。上毛新聞社記者に、新聞の構成や特徴、記事の作り方などの授業していただいた。教えていただいたことをもとに学校紹介の新聞作りを行った。作成した新聞は小学校へ送り来年度の新1年生に見てもらえるようにした。



新聞ノート



生徒作成の新聞

II. 新聞の置き場所と整理の方法

NIE指定校4年目となり、生徒に浸透してきたため、置き場所は従来と同じにした。「きょうの新聞」「きのうの新聞」「2日前の新聞」と掲示し、新聞社ごとに分けて生徒玄関前に置いた。4日以上前の新聞は新聞社ごとに分けてコンテナに入れて玄関ホールに置いた。朝や休み時間にぱらぱらと眺めている生徒が増えた。1ヶ月以上前の新聞は図書室に保管し、生徒がいつでも利用できるようにした。生徒が興味を持ちそうな記事や生徒に考えてほしい記事をマーカーで囲んで掲示しておいた。時には「←この記事についてどう考えますか?」と生徒に投げかける文を記事の横に貼っておき、生徒

が考えるきっかけを作った。



生徒玄関前に設置



読んでほしい記事を掲示



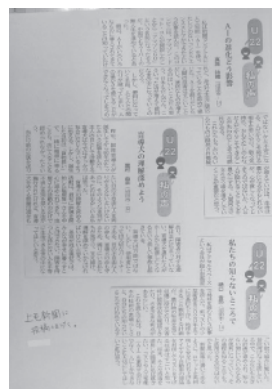
新聞社ごとに分類

III. 実践の内容

(1) 第2学年 国語科における実践「意見文 ～新聞に投稿しよう～」



1年生では新聞に親しむことを中心に指導を行ってきた。そこで2年生では世の中の出来事に関心を持ち、自分の考えを発信できるようになることを目指し、新聞の投稿に取り組んだ。学級では、朝の会で日直がその日の気になるニュースを報告する活動を取り入れており、玄関前の新聞コーナーには、その日のニュースを読んでいる生徒もいる。ここでは、記事をぱらぱらと読んでいる生徒が多い。しかし、新聞はじっくり読むと意外な記事に出会えたり、世の中の出来事について考えるきっかけになることも多い。授業では、新聞をじっくり読む時間も確保し、そこから【要約文】にまとめ【意見文】を書き、投稿文としてまとめた。また、友達が注目した記事をお互いに読むことで視点や考え方が広がった。実際に新聞社に投稿し掲載された生徒も多く、生徒たちの自信になった。この学習を新聞ノートや新聞スクラップとして、家庭学習に広げていくことが今後の課題である。



(2) 第1学年 国語科における実践「新聞に親しもう」

1学年では、まずは新聞に親しめるようにしたいと考え、上毛新聞社の記者に授業をしていただいた。インタビュー形式で次のような内容について教えていただいた。

①紙面の構成

1面記事には順位があり、トップ・肩・へそなど体の部位の名称をつける。記事の内容は、1面からだんだんやわらかくなる。

②記事の書き方の工夫

「いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように」の5W1Hがニュースを書くときに必要な要素。記事のはじめに大切なことを持ってきて、そこを読むとどんな出来事があったのかわかるように書いてある。わかりやすい文章にすることが大切で、中学2年生が読めるくらいを意識して書いている。難しい言葉を知っていてもわかりやすい言葉にする。ミスをするのは致命的なので、名前、場所、数字などは間違いのないように細心の注意を払う。急ぐけれど心は冷静。



③中学生へメッセージ

新聞は情報が多いので見出しだけでも読んでほしい。見出しを読む中で気になった記事があれば、一段落だけでも読むと大体の内容がわかる。自分は新聞記者になるつもりはなかったが縁あって今の仕事をしている。読んだ人に喜んでもらえる仕事なので今はやりがいがある。仕事をしていると喜ばれる瞬間がありそれがやりがいになる。国語が苦手だったが、不得意でも喜びがあると頑張れる。だ

から何でもやってみることが大事。また、「感謝」を大切にしてほしい。プラスのエネルギーは次のプラスを生む。感謝が次につながることはたくさんある。

このほかにも、大変だった取材や思い出に残っている取材などについて話していただいた。授業当日は、地元新聞販売店のご好意で30部の新聞を準備していただき、実際に新聞を見ながらお話を伺った。本物の方の話は説得力があり、新聞に興味を持った生徒がたくさんいた。



次の時間には新聞をじっくり読み、気になった記事を切り抜き【記事の要約】と【意見文】を添えた新聞スクラップを作成した。意見文を書くことは苦手な生徒が多いが、自分で選んだ記事に対する意見文なので書きやすかったようである。

(3) 第1学年 国語科における実践 「学校案内新聞を書こう」

中学校への進学を控えた小学校6年生へ向けて南中学校を紹介する新聞作りに取り組んだ。「新聞に親しもう」で教えていただいた新聞の作り方を参考に、記事の内容、割り付け、見出しを考えながら作成することができた。例えば、分かりやすい5W1Hの書き方、大事なことを先に書き徐々に詳しくしする書き方、読み手をひきつける見出しの工夫などである。

1. 単元名 学校案内新聞を書こう
2. 単元計画 (6時間予定)

時	学習指導	学習活動への主な支援・留意点	評価項目【観点】(方法)
1	・6年生へ向けた新聞を作ることを知り、テーマ及び記事の内容を考える。	・1年前を思い起こさせ、6年生に向けた新聞としてふさわしい内容、テーマを考えさせる。 ・テーマごとにグループを作り、ふさわしい記事の内容を検討する。	・意図に合わせたテーマ、記事の内容を考えている。(観察)
2	・下書きをする。	・担当した記事の下書きをする。 5W1Hの書き方に則って書けるよう読み返させる。	・「6年生に紹介する」という意図に合わせた下書きを書いている。(下書き)
3 4	・取材及び下書きをする。	・記事の内容に合わせて、必要な取材及び資料集め、下書きの加除修正をする。 ・取材の仕方や資料の集め方を指導する。	・意図に合わせた取材、下書きの修正をしている。(下書き)
5	・6年生に向けたわかりやすい新聞になるように、下書きを読み合い、推敲する。	・文のねじれ、5W1H、見出しなどの観点にあわせて、グループで互いの記事を読みあい、推敲する。	・わかりやすい表現に気をつけ、小学生に伝わるような文章を書いている。(記事)
6	・清書する。	・前時の推敲を参考に、記事の清書、見出しの工夫などをして、新聞を完成させる。	・新聞としてのまとまりを考えながら清書や見出しを完成させている。(記事)

3. 本時の学習 (5/6時間目)

- (1) 学習目標 6年生に向けたわかりやすい新聞になるように、下書きを読み合い、推敲する。
- (2) 準備 教師：掲示用推敲例 生徒：下書き
- (3) 展開

過程	学習活動	時間	支援及び留意点	評価項目
つかむ	・教師が書いた記事を読み、6年生にもよくわかる文にするにはどうしたらよいか話し合う。	10分	・文のねじれや分かりにくい表現のある記事の例を示し、改善点を話し合う。 ・5W1Hの書き方にするとわかりやすくなることを確かめる。 ・これからグループで活動することを知らせる。	○おおむね満足 ☆十分満足
集団解	◎グループで下書きを読み合い、よりわかりやすい記事に推敲しよう。 ・グループで下書きを読み合い、お互いにアドバイスをし合う。	20分	・つかむ過程での学習を元にグループで下書きを読み合う。 ・読み手は6年生であることを再確認し、言葉遣い、記事の内容が適切であるか話し合わせる。 ・さらによいものにするための話し合いであることを確かめ、相手を非難するような話し合いにな	

決			<p>らないよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人の下書きをグループ全員が読み、話し合いの視点として、①よいところ、②直すところ、③もうひと工夫するところなどに注意して意見を述べ合うようにする。 <p>①よいところ わかりやすく読みやすい工夫がされている。</p> <p>②なおすところ 誤字脱字、言葉遣いの間違い、文のねじれがある。</p> <p>③もうひと工夫 小学生にわかるように工夫した方がよい部分。見出しの工夫や、5W1Hの書き方などの工夫ができるところ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観点別に線を引かせる。 自分の下書きに対して出された意見を記録するときにも同様にメモをとらせる。 	
自力解決	<ul style="list-style-type: none"> グループでの話し合いを元に記事を書き直す。 見出しを考える 	18分	<ul style="list-style-type: none"> グループでの話し合いを元に記事を書き直す。 必要に応じて辞書を使用させる。 ののところには、同じ内容でも様々な表現が可能であることを指摘し、他の表現を考えさせ、小学生に親しみやすいわかりやすい表現になるよう考えさせる。 図や写真、表などがあるとよいのではないか検討させる。 相手意識を持たせ、6年生が興味を持ちそうな見出しを考えさせる。 <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>③の視点の書き換えでつまづく生徒が予想される。グループでの話し合いを参考にさせ、補うとよい語句や図や表があるとよいのではないかなどを検討させる。また、グループの人にアドバイスを求めるなどして個別支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手意識を持つことや、文章を読み返す習慣の大切さについて説明する。 	<p>○わかりやすい表現に気をつけ、小学生に伝わるような文章を書いている。</p> <p>☆伝えたい事柄を的確に表す語句を選択し、小学生に伝わるような文章を書いている。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 下書きと書き直した文章とを読み比べ、推敲の大切さについて知る。 	2分	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識を持つことや、文章を読み返す習慣の大切さについて説明する。 	

IV. 実践の感想と今後の課題

① 生徒の変容

- 新聞を身近に感じるようになった生徒が増えた。
- 1面の記事だけでなく、コラム欄や人生相談の欄なども読むようになった。
- 意見文の投稿を通して、世の中の動きに興味を持ったり、自分の考えを持ったりすることができるようになった。
- NIEの取り組み4年目となった今年度は、記事の評価しながら読んだり、考えを表現することができるようになった。
- 1学年は新聞に親しむこと、2学年は新聞を読んで考えたことを発信すること、3学年はこれまでの学習を生かして家庭学習で取り組むことができ、学年に応じた実践を行うことができた。

② 課題と改善策

- 今年度はNIEについてのアンケートを1回しかとらなかった。アンケートの内容と回数を増やし、実態把握をして改善に役立てたい。
- 今年度の取組は国語科が中心であったため、今後は他教科でも新聞を導入や題材で活用できるようにしたい。
- 新聞記者の出前授業は大変勉強になり、生徒は新聞に対する興味が高まり、職業についての考えも深まるので、次年度も授業を計画したい。
- 新聞を題材とした要約文や意見文などの学習を家庭学習にどのように広げていくことができるかを検討していきたい。

言語能力と実社会への関心を高めるNIE

太田市立東中学校 松橋美智子

(1) 実践の概要

新規校である今年度は「言語能力と実社会への関心を高めるNIE」をテーマとし、NIEで語彙力の向上と読解力・表現力の向上を目指しつつ、実社会への関心を高め、メディアリテラシー・情報活用能力の伸長を図ることを目指した。

NIEを国語の教科指導の中に取り入れたのは、3年生(4クラス150名)と特別支援学級(知的障害学級1クラス・情緒障害学級1クラス12名)だが、2年生(4クラス156名)は、総合的な学習の時間で、新聞委員会の生徒(1~3年生43名)は特別活動で実践を行った。

当初は、「まず、新聞を毎日手に取るようにする」ことからはじめ、「天声人語」や「編集手帳」「三山春秋」等のコラムの書き写しと見出し作りを行い、次にスピーチ活動を取り入れて新聞への興味関心を高め、さらに、読売新聞社前橋支局長の春日記者や上毛新聞社編集局の子安記者の「出前授業」を企画し、生徒がより主体的に学ぼうとする意欲が高まるよう工夫した。

(2) 新聞の置き場所と整理の方法

本校では、地元の販売店さんのご厚意で、朝日新聞は毎日16部、読売新聞(土、日をのぞく)は20部が届く。

そこで、各教室(12クラス+特別支援2クラス 計14クラス)に新聞を配布する「新聞当番」を新聞委員の常時活動として位置づけ(一週間交替で担当)、教室で誰でもいつでも自由に新聞を読むことができる環境づくりをした。

加えて、今まで新聞を閲覧できる場所が確保されていなかった職員室と図書室に「新聞ラック」を用意し、当日と前後の日の新聞(3日間分)を、生徒も教師も自由に読めるようにした。

さらに、図書室には「新聞コーナー」を設け、4日目となって古紙となった新聞を綴じて冊子状にし、閲覧棚のうえで新聞を広げて読めるスペースとした。

また、9月~2月までは、上毛新聞・東京新聞・産経新聞・毎日新聞・朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞・の7紙を提供していただいたので、それも「新聞コーナー」で読めるようにした。

もう一つ、1階の生徒玄関の脇に新聞委員会コーナーを設け、「号外」や週刊の「朝日中高学生新聞」、月刊の毎日新聞社の「なるほどり」上毛新聞社「風っこ」「シャトル」読売新聞社の「読売中高生新聞」を掲示し、全校生徒が自由に読めるようにした。



左 図書室の新聞コーナー 中 職員室の新聞ラック 右 新聞委員会コーナー(号外等を掲示)

(3) 実践の内容

①国語科の教科指導

<新聞制作活動 対象3年 4~6月実施>

国語科での学習新聞づくりは、「読む・考える・書く」という言語能力の育成の視点から見ても有用な活動であり、生徒一人ひとりが「個性」と「創造性」を發揮し主体的に取り組める活動である。また、単元や教材のねらいによって「基礎・基本の充実を図るための補充学習」としても「発展的な学習」としても取り入れることができる。



↑はじめて作った「はがき新聞・自己紹介新聞」

今年度の3年生は、はじめてNIEに取り組む生徒達なので、まずは手軽に取り組める「はがき新聞」で「自己紹介新聞」「握手～井上ひさし～読後新聞」「読書紹介新聞」を作らせ、「新聞制作活動」の楽しさを実感できるようにした。

その際には見出しにどの言葉（語彙）を使うのか、伝えたいことの要点は何かということ意識するよう指導し、新聞制作に慣れてきたところで、B4版2枚の「修学旅行の学習新聞」（総合的な学習の時間で実施）に活かせるようにした。

「修学旅行新聞」は両毛五市（太田、桐生、館林、足利・佐野）で毎年行われている学校新聞コンクールや第67回全国小中学校PTA学校新聞コンクールの「学習新聞」部門で好成績を収めた。



右 廊下に掲示した「自己紹介はがき新聞」
下「修学旅行新」

＜新聞利用学習 1分間ニュース
プレゼン 対象3年 4～2月実施＞

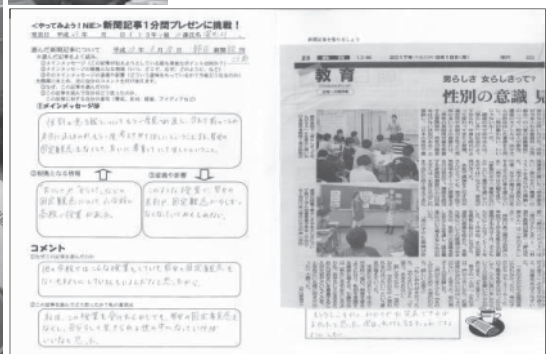
「話すこと・聞くこと」の能力の向上を図るために「1分間ニュースプレゼンテーション」を輪番制の常時活動として取り入れ、社会の出来事に対する関心も高まるよう記事の選び方についても助言した。

当初は、新聞を読みこなすことができず「スポーツ面」から始めた生徒もいたが、「社説」や「論説」を取り上げて発表する生徒や関連記事や写真を他社の新聞面から切り抜き比較する等の工夫をする生徒も少しずつ増加した。

それに伴って発表後の意見交換が活発化し、自分が発表した記事についての追加報道を持ってきたり図書室で調べことを付け加えたりして、意見の修正を発表する等、徐々に主体的に活動する生徒の姿が見られるようになり、「新聞は難しい記事もあるけど、読んでみると次々に新しいことに気づいて、面白い」という感想を持つ生徒が増加した。



左 1分間ニュースプレゼンの発表風景
下 発表原稿



＜新聞利用学習 「社説に注目！意見文を書こう」対象3年生 10月実施＞

○本時のねらい 自分がスクラップしてきた社説について、「事実が述べられている部分」と「筆者の意見・主張が述べられている部分」を見分けて構成とテーマをとらえた上で、社説に対する自分の見解を根拠に基づいて意見文としてまとめることができる。

③展開

時間	学習活動	支援及び留意点
5分	○本時のねらいと学習の流れを確認する。	○学習内容と本時の流れを確認し、学習の見通しを持つ。
40分	○自分が選んだ社説に	○教科書教材の社説「新聞の社説を比較して読もう」を参考にして、自分が

分	ついてテーマと構成、論理の展開をつかむ。 ○社説についての自分の立場を決める	選んだ社説の文章について「事実が述べられている部分」には赤線を、「意見や主張が述べられている部分」には黒線を引き、社説のテーマと構成、論理の展開をおおまかに掴む。 ○「社説の意見に全面的に賛成だ」「全面的に反対だ(納得できない)」「この部分には賛成だが、この部分には反対だ」「一つの根拠には納得できるが、二つ目の根拠には納得できない」等、自分の立場を明確にさせる。
	○自分の主張・意見を支える根拠をもとに、序論・本論・結論の形式で意見文を書く。	○自分の体験や図書資料、他の人の意見、または対象となる社説からの引用など、自分の主張や意見を支える根拠をあげ、①～③のいずれかの立場で意見文を書く。①社説の意見についてなぜ賛成できるのかの根拠を書く ②社説の意見について根拠を述べながら批判する ③賛成箇所と批判する箇所を取り上げ、それぞれ根拠を述べる ○社説によっては、自分の主張に対して予想される反論(批判)を設定し再反論を述べるようアドバイスする
5分	○本時のまとめと次時の予告	○次時はグループごとに意見文を発表しあい、相互推敲活動を行うことを伝え、その準備として各自でワークシートのチェック欄を用いて自分の意見文について推敲し、構成を確かめさせる

*意見文はクラスで輪読して意見交換した後にさらに推敲して清書し、ファイルにまとめて図書室に置き、誰でも閲覧できるようにした。

<新聞機能学習 新聞記者の出前授業 1月22日(月)>

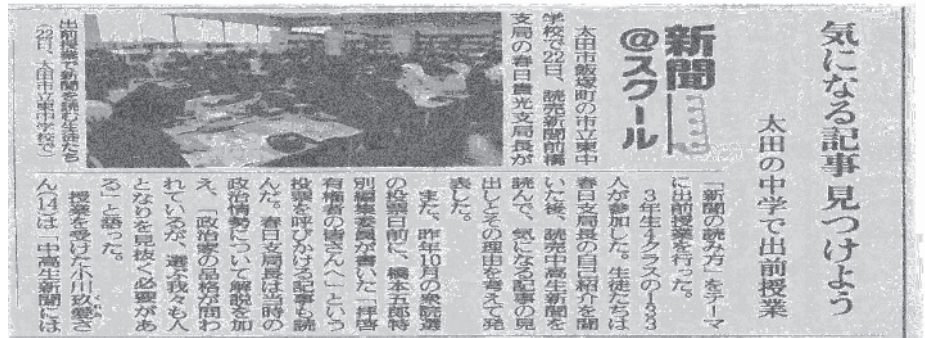


上 春日記者の授業風景

- ・講師 読売新聞社前橋支局長 春日記者
- ・テーマ 新聞の読み方・主権者教育 ワークショップ
- ・授業の概要

記者の取材の仕方や生活の様子、新聞ができるまでの苦労等を聞かせていただき、生徒は驚くとともに大変興味をかき立てられた様子だった。授業後の感想には、ほとんどの生徒が「新聞に対する見方が変わった。」と答えた。また、「読売中高生新聞」を使ったワークショップでは、実際に記事を書いている人を前にして「気になる記事」について発表するという緊張感があり、日頃の「1分間プレゼン」とは違う「新鮮さ」を感じた様子であった。

「主権者教育」として取り上げたのは、読売新聞社特別編集委員の橋本五郎氏の「真質を見極めたい」(2017, 10, 21)という記事で、生徒は春日記者の「記者は『なぜ』『どうして』』という繰り返して追求。言葉を選び、論理的な文章にしていく」という話や、「選挙は、選ぶ側の私たちが候補者を見抜く目を鍛えることが大事だ」という話に真剣に耳を傾け、話題として取り上げていた「～なことから」「～をきっかけに」「～をしたために」「～を理由に」という記述に注意し、記事に線を引き、筆者の意見を掴もうとしていた。授業後には、「新聞をもっと知りたい」という声が生徒たちからあがり、学んだことや質問したいことを「NIEはがき新聞」にして春日記者にも届けようということになった。



上 2018、1、23 読売新聞掲載の記事
 左 授業出活用した読売新聞の記事 2017、10、21

ボケメンなどが載っていて初めて新聞の面白さが分かったと話していた。

<新聞利用学習 ディベート「高瀬舟」>

「伊「尊厳死法」が施行」(2018.2.2 読売新聞)の記事を導入に使い、尊厳死についての考えを各自でまとめた後、教科書の読書教材である森嶋外の「高瀬舟」について、ディベートを行った。近隣の高等学校の女子生徒殺害事件があったことで、「自殺幇助」や「嘱託殺人」等への関心は高く、生徒は新聞だけでなく、インターネットや六法全書等の様々なツールを使って、安楽死や尊厳死についても調べてディベートを行い、考えを深めていた。

② 総合的な学習の時間 対象2年

<新聞記者の出前授業 7月6日(木)>

- ・講師 上毛新聞社編集局 子安記者
- ・テーマ 新聞の作り方
- ・授業の概要

2年生は、帰りのHRで日直が「気になるニュース」を紹介するスピーチ活動で新聞活用をしているが、さらに「新聞製作活動」によって新聞への関心を高めたいと考え、記者の出前授業を企画し、『東京郊外体験学習』のまとめとして、より良い「学習新聞」を制作しようと呼びかけた。

子安記者から見出しの付け方や基本的なレイアウト、読んでみたくなる紙面の作り方等の話を聞き、講話後には、写真やイラストの配置、四コマ漫画の扱い方等、日頃から新聞を読んで気になっていることを質問する姿がみられ、「早速、やってみよう」と意気込む生徒が多かった。制作にあたっては、構成や記事内容について質問やアドバイスを求めてくる生徒が次第に増加し、見出しの語彙が豊富になり、表現力が格段に向上した。できあがった「学習新聞」も両毛五市学校新聞コンクールに応募したが、好成績を収めることができたことで、一層意欲が増し、進路学習である「職場体験学習」や「高校調べ」においても、「学習新聞」にまとめて発表し合い、その新聞を1年生のフロアーにも掲示し、来年度の参考になるようにした。



左 尊厳死についての記事 右 NIE新聞

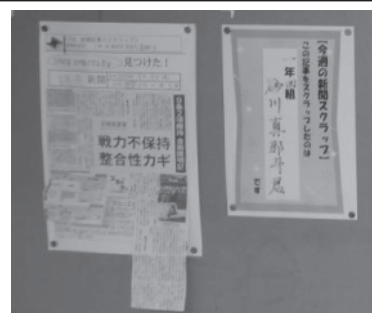


左 2017、7、7 上毛新聞掲載の記事 中 子安記者の授業風景 右 廊下に掲示した「職場体験学習新聞」

③ 特別活動・新聞委員会活動

「学級のオピニオンリーダーになろう！」と新聞委員に働きかけ、学校新聞と学級新聞の製作を行った。「学級新聞」も新聞コンクールに応募し太田市代表に選ばれたことで委員会内が活気づき、紙面作りに工夫が見られるようになった。また、多くの生徒が新聞に関心を持ち、社会に目を向けるように新聞委員会コーナーにも「新聞委員が選んだ気になるニュース」を掲示し、啓蒙に努めた。

右 「新聞委員の気になるニュース」
新聞委員会コーナー



④ 特別支援学級

週2時間を担当したが、授業開始後の20分間に「新聞に親しむこと」を主眼として「季節」「笑顔」「喜怒哀楽」等を掲載されている写真を探し、その写真についてのお話を作る創作活動を行った。また、「読売ワークシート通信」も活用し、内容に応じて「言葉さがし」や漢字練習を行い、学校行事の後には、「思い出新聞」の制作を行った。

生徒は嬉々として取り組み、「次は、何かな?」「またやりたい」と次時への期待を示してくれた。

(4) 実践の感想と今後の課題

多くの生徒がNIEによって語彙力や表現力が向上したことを実感しており、自分から「新聞」を手にとるようになってきている。また、「出前授業」で意欲が高まり、新聞や社会に対する関心も高まっている。

NIEの有用性を多くの人に理解してもらえるよう、来年度もさらに工夫し、充実を図りたい。

国語科・総合的な学習の時間の実践

桐生市立相生中学校 教諭 小池 正文

1. 実践の概要

本校では、広報委員会が定期的に学級新聞を発行し、校舎内や教室内での掲示行っており、また、各生徒も行事のまとめで学習新聞を作成しコンクールに出品するなど、新聞を作成の実践は前々から行われていた。しかし、発行されている新聞を活用しての授業展開はあまり行われていなかった。そこで、今年度よりNIE実践校として指定を受けたことをきっかけとして、国語科と総合的な学習の時間に新聞を活用しての授業展開を計画した。どちらの教科とも新聞を活用するだけではなく、本校が行ってきた新聞作成につなげるため、学んだこと、考えたことから自らの新聞作成に生かせるようにした。すなわち「新聞から学び、自分の新聞に生かす」というテーマで実践を行ってきた。



2. 実践の内容

○国語科での取り組み

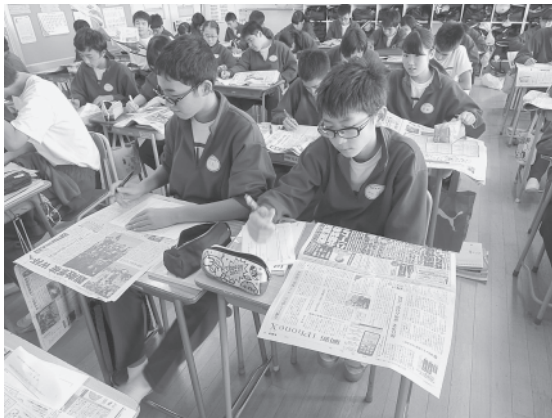
本校の生徒の実態として、文章を読むことや書くことに対して苦手意識を持っている生徒が多い。その理由として「言葉を知らない」「言葉を使いこなせない」など語彙力が乏しいことがあげられる。そこで、国語科では語彙力を高めるため、新聞の投書欄やコラムを活用し、そこに使われている語句を調べ、ノートに語彙をためていく活動を行った。そして、それを調べたり使ってみたりすることで、言葉に対して興味を持ち、言葉への意識を高められると考えた。

【2年生での実践】

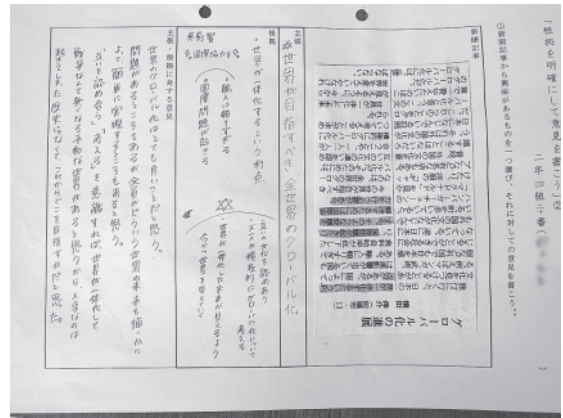
本実践は、2年生の「根拠を明確にして意見を書こう」の学習で、意見文を書く際に使用する語句に根拠を持たせて文章表記をすることをねらいとして行った。語句を増やすための手立てとして、新聞スクラップ、言葉ノート、教科書に使われている言葉の意味調べなどを行い、そこに使われている言葉を使って短文や短い意見文、はがき新聞を書く練習を行ってきた。特に新聞活用では、「興味のある記事を見つける」→「記事の感想を書く」→「記事に対しての意見を書く」→「記事に使われている言葉を使って文章を書く」というように段階を踏んで行ってきた。また国語をだけでなく、道徳や総合的な学習の時間でも活用し、生徒が普段使わない言葉と触れる機会を増やしてきた。また新聞を書く実践も行い、ここでは語彙の使い方を考えて文書を書くことと、読者を意識して書くこと(根拠を持たせて書くこと)を重視させた。

本単元では導入で上毛新聞のU22(若者の投書)の中から興味のある投書を選び、自分の主張を設定した。自分の主張をより明確にするための根拠として、新聞記事の中から具体例や理由付けの基となる記事を探し、それを主張が同じもの同士でグループとなり、それを深めていった。意見文を書く際には「主張」「具体例」「理由付け」「反論やその答」

を明確にして文章を書く指導を行った。しかし、新聞記事のクリッピングがうまくいかず、基となる記事も同じものを使う生徒が多く、話し合いに深まりが生まれなかったのが一番の課題である。



興味のある記事を探す作業



新聞の投書欄に対する意見文

○総合的な学習の時間での取り組み

【2年生での実践】

2年生では、総合的な学習の時間の地域学習として、職場体験学習で地域の事業所にお世話になる。そこで、地域を知る一環として自分たちの住む桐地域を知る活動として新聞を活用した。その中に桐生市から隣接する市へ転出する人が多いという記事があったことから、桐生に関わる新聞記事を探し、桐生の名産や観光地、有名人を調べ、はがき新聞を使って桐生の魅力を発信する活動を行った。

2年生総合的な学習の時間

桐生のことを知って桐生の未来を考えよう

○本時の目標

新聞記事をもとに桐生のことを知り、これからの桐生について考える。

時間	
5	<p>1.桐生の現状を考える。</p> <p>あなたは桐生市が「好き」ですか？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>Yes 緑がたくさんある 空気がおいしい 歴史的な建造物がある 動物園がある 昔から住んでいるので親しみを感じる</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>No 遊ぶところが少ない 店が少ない 田舎すぎる 都会が好きだから 熊出る</p> </div> </div>
10	<p>2.自分と桐生の未来について考える。</p> <p>10年後も桐生に住んでいたいですか？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>Yes 安全(犯罪が少ない) 友達がたくさんいる 店はますますあるし、食べ物もおいしい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>No 働くところがなさそう 店が少ない 都会に出て生活がしてみたい</p> </div> </div>

1 0 3.桐生市の現状を新聞記事から見てみよう。

桐生市の今の様子を見てみよう

新聞活用 桐生タイムス(2012-2-17)

このままだと桐生市がなくなってしまうかもしれない。
こんなに桐生市から人が流出しているんだな。
暗いニュースばかりだ。
桐生市に元気になってもらいたい。←これが出るとよい。

4.桐生市の未来について考える

1 0 元気がない桐生市は、これから何をしていけばいいのだろうか？

人を呼べるようなテーマパークを作る。
観光PRをする。
お店を増やす

1 0 5.自分たちにできることを考える。

元気がない桐生市は、これから何をしていけばいいのだろうか？

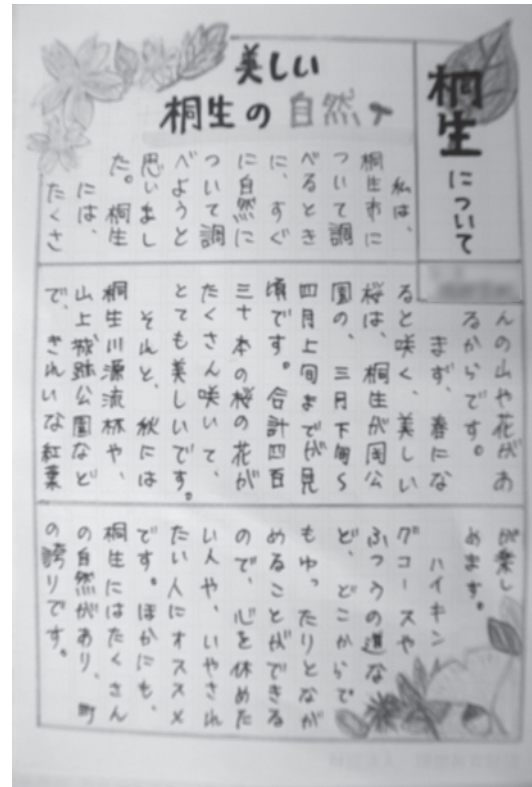
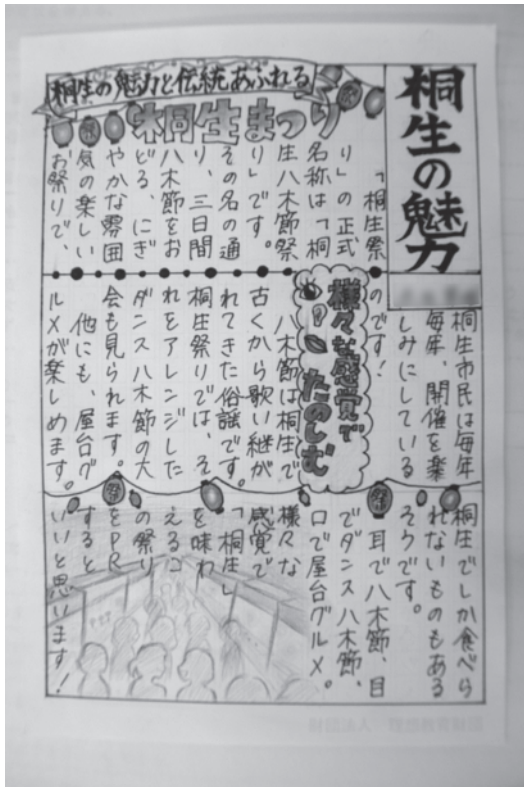
桐生市の魅力を発信しよう。
桐生市の課題を改善できるように提案しよう。

5 6.課題設定

次回の調べ学習のテーマを決めよう

桐生の歴史 桐生出身の有名人 桐生の祭 桐生のグルメ 桐生の観光名所
桐生が元気になるための提案 桐生の自然





3. 実践の成果と課題

【成果】

- 新聞を購読している生徒が少ないため、新聞を活用した授業を行うときに、生徒は興味を持って授業に取り組んでいた。
- 新聞記事を活用することで、語彙に触れる機会が増えた。また、そこに使われている言葉の中で、わからない言葉を調べたり、興味を持って使ってみたりすることで語彙に対して興味を持つ生徒が増えた。
- 同世代の投書欄を活用することで、自分と同じような問題意識を持っている記事に触れることができ、興味深く授業に取り組むことができた。
- 投書欄を用いたことで意見文の書き方や、根拠の示し方の例にたくさん触れることができた。

【成果】

- 新聞の置き場所が定まらず、生徒や職員にうまく活用してもらうことができなかった。担当以外でも積極的に活用できるように、保管方法を考えて行かなければならない。
- 新聞のクリッピングを計画的に行えなかった。
- 特定の教科や教員だけでなく、学校全体で積極的にNIEに取り組めるように、計画を立てていきたい。

NIE 平成29年度の取り組み

群馬県立尾瀬高等学校 教諭

鈴木経之介

学校司書

星野 隆志

1 本校の概要と実践

本校は、群馬県北部に位置し、普通科と自然環境科の2つの学科に設置され、1学年2学級で全校生徒数は170名という小規模校である。自然環境科は、全国に1校しかなく、尾瀬国立公園や武尊山などへの実習を行っている。また、全国から生徒募集する「尾瀬ハートフル・システム」という制度を実施している。

本校では十数年前から毎朝SHR前に10分間の読書の時間である「朝読」を設け、読書に対する定着を促しているのと同時に生徒に落ち着きを持たせている。

本校の進路は、概ね指定校や推薦による大学・短大への進学が2割、専門学校への進学が6割、就職が2割である。普段あまり読まないが、進路に関係ある一部生徒は新聞を読む。ただし、スキー部や弓道部や理科部などが全国大会や県大会での活躍や学校行事などが新聞に掲載されると、新聞を読み、図書館に足を運ぶ生徒が増える。

本年度からNIE実践校としての指定を受けた本校の初年度のねらいは以下の通りである。①新聞を読むことにより文章になれたり、人の考え方や世の中やニュースを知る。②新聞の感想を書いたり、まとめたりして、人前で話す。③以上のことから「読む力・考える力・話す力」を育む。

本年度は主に社会科(地歴公民科)が中心となり取り組み、授業や長期休業中の課題として実施した。また、新聞を保管している場所が図書館であるので、図書委員会が活動の一環として行った。

2 新聞の置き場所と整理の方法

毎朝担当教員が新聞を職員室の談話コーナーに置き、先生方に読んでもらう。翌朝、学校司書が図書館へ運び、昼休み・放課後に自由に読めるようにした。各新聞を1週間毎に束にして、どの新聞も読めるようにした。授業でも図書室を利用したり、教室に新聞を持ち運んで、新聞を読ませたり、感想を書いたり、自分の意見をまとめたりさせた。



▲図書館の様子

3 実践の内容

①現代社会(1年普通科・3年自然環境科)

a 最近気になったニュース

最初の授業で「最近気になったニュース」をクラスメイトの前で話す。互いにニュース内容について、意見を交換し合うなどアクティブ＝ラーニングの一環として新聞を役立てた。

b 上毛新聞第9回群馬県小中高生新聞感想文コンクールへの参加

政治分野を始める前に新聞を読み、政治とは何かを考えさせた。その一環として新聞記事に関する感想を書かせ、それを上毛新聞第9回群馬県小中高生新聞感想文コンクールへの応募した。



▲高校の部入選



▲授業風景

c 上毛新聞の「ひろば」への投稿

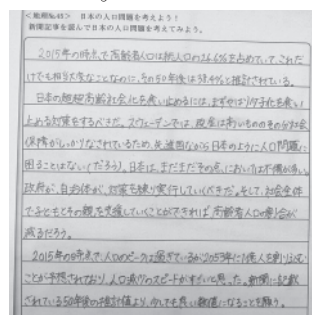
今年度最後の授業で上毛新聞の「U22私の声」である読者の投稿し、新聞を読む力・文章を書く力を試しつつアクティブ＝ラーニングを行った。

②地理B（2・3年普通科）

日本の人口問題についての記事を読み、人口問題の現状を踏まえて、今後の少子高齢社会に対する対策を考え、みんなの考えをまとめた。



▲新聞記事



▲生徒の意見

③日本史B（2・3年普通科）・地歴公民セミナー（3年普通科）

第100回全国高校野球選手権記念大会のキャッチフレーズコンクール(朝日新聞社など主催、日本高野連後援)に応募

授業でそれぞれが第100回全国高校野球選手権記念大会のキャッチフレーズを作り、それを仲間と一緒に試行錯誤しながら訂正し合い応募した。



▲優秀賞



▲授業風景

④図書委員会（N I E教育に新聞を）

a 尾瀬高生100人が選ぶ及びあなたが選ぶ、今年の重大ニュース

図書委員が2017年1月から10月初旬までの、「気になる新聞記事」を以下の表の通り16記事を選んだ。次に10月10日(火)から27日(金)までの3週間、尾瀬高図書館に足を運んだ尾瀬高生100人に気になった新聞記事を一人5つ選んでもらいそれを集計した。最後に尾瀬高祭(11月11日(土))に来場した人のうちの122名に、その新聞記事を一人5つ選んでもらいそれを集計した。

表

尾瀬高生100人が選ぶ及びあなたが選ぶ、今年の重大ニュース					
記事日付	新聞記事	生徒順位	得票数	来場者順位	得票数
8/30	Jアラート発動、北朝鮮ミサイル日本上空通過	1	75	1	86
6/24	市川海老蔵さんの妻小林麻央さん死去	2	57	2	62
9/21	安室奈美恵、芸能界引退を電撃発表	5	48	3	56
3/28	栃木県の高校山岳部、雪崩事故に巻き込まれ8人が死亡	8	31	4	55
4/11	アンジャッシュ渡部、佐々木希と結婚	4	50	5	50
9/10	陸上100m桐生選手9秒98、日本人初の9秒台を記録	6	38	6	46
6/23	自民党豊田真由子議員、暴言・暴行報道	7	34	6	46
9/4	眞子内親王ご婚約内定	10	20	8	36
10/3	米ラスベガスで銃乱射、600人あまりが死傷 米史上最悪	3	56	9	33
3/24	森友学園・加計学園問題で国会紛糾	9	29	10	31
1/23	稀勢の里、若乃花以来20年ぶり日本人横綱誕生	11	17	11	30
9/1	サッカー日本代表男子、W杯出場 6大会連続	11	17	12	28
6/23	小池知事、築地市場の豊洲移転問題基本方針発表	11	17	13	19
10/6	日系英国人作家カズオ・イシグロ ノーベル文学賞受賞	15	14	14	16
9/29	衆議院解散、10月22日総選挙へ 小池新党ブーム等	14	16	15	14



▲選んだ新聞記事



▲尾瀬高祭の様子



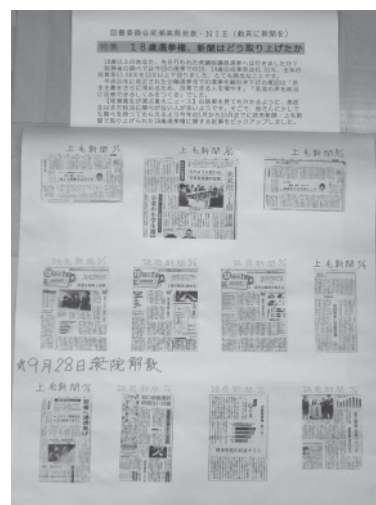
▲図書館の様子

結果：生徒も、成人が多かった一般参加者も、同じような結果になった。誰もが経験したJアラートの発動や芸能関連のニュースが上位を占めた。政治や文化・スポーツ関連の記事はあまり関心が持たれなかった。

b 18歳選挙権を新聞はどう取り上げたか。

平成29年10月24日に第48回衆議院議員総選挙が行われた。選挙権が18歳以上に引き下げられてから初めての衆議院議員総選挙であった。総務省の調べでは、今回の選挙での18・19歳の投票率は41.51%であり、全体の投票率53.68%を12%以上下回った。平成26年に改正された公職選挙法での選挙年齢引き下げの意図は「民主主義をさらに深めるため、投票できる人を増やす」「若者の声を政治に反映できるしくみをつくる」である。

この結果を受けて各新聞が18歳選挙権をどう取り上げたかを比較しながら、模造紙に掲示し、選挙に対する関心を高めた。



▲18歳選挙に関する新聞記事

⑤N I E 出前授業（1・2年生全員）

上毛新聞社によるN I Eの出前授業を行った。1、2年生が「新聞ができるまでの流れ」やSNSの危険性について学んだ。N I E担当記者が講師を務め、報道写真の撮り方や、記事中の言葉の選び方などを説明した。

また、最も大事な記事は、「一面の右上にあり、大きな見出しのものほど大きなニュース」と説明した。



▲1N I E 出前授業

4 実践の感想と今後の課題

①実践の感想

年度途中からの事業への参加であったが、一部の授業と委員会で実践した。始まる前は、生徒が活動をしてくれるか、自分自身ができるのかと心配と不安であったが、生徒は思いのほか積極的に活動し、心配と不安が吹き飛んだ。活動の中でも、上毛新聞第9回群馬県小中高生新聞感想文コンクール高校の部入選や第100回全国高校野球選手権記念大会のキャッチフレーズコンクール優秀賞を受賞するなど成果を上げた。

また、尾瀬高校図書貸出冊数が平成29年4月から平成30年1月までの1731冊の貸出があった。昨年の同時期は合計1061冊と1.6倍に増加した。このことはN I E事業によるものだけではないが、一助にはなったのは揺るぎない事実であり、感想文コンクールのために本を借りた生徒がいた。

②今後の課題

今年度の取り組みは、社会科（地理歴史科・公民科）と図書委員を中心とした活動であった。そのため生徒がN I E事業を行っていることを3月まで知らない生徒もいた。次年度以降、N I E通信を教員や生徒に向けて発信し、他の教科や他科目の先生方にも協力を得ながら活動したい。また、HR活動や進路指導等で活用できればと考えている。

2018年6月30日発行

2017（平成29）年度

群馬県N I E実践報告書

編集 群馬県N I E推進協議会事務局
発行者 群馬県N I E推進協議会
事務局 〒371-8666 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社内
電話 027-254-9923
